

市民参加型まちづくり1%システム 事業成果発表会

日時:平成29年5月27日(土)

場所:ヒロロスクエア イベントスペース

次 第

1. 開会
2. 成果発表
3. 講評
4. 挨拶
5. 閉会



【担当】

弘前市市民文化スポーツ部
市民協働政策課 市民協働係

事業成果発表会予定表

開始時刻	事業名	団体名
10:15	開会	
10:20	弘前暮らしの保健室	弘前暮らしの保健室
10:30	国際交流事業(1)国際交流夏祭り (2)国際交流餅つきフェスティバル	桔梗野町会
10:40	もったいない食育学習出前講座	特定非営利活動法人 もったいないつがるの会
10:50	「グッド・トイ2016inひろさき」の開催	青森グッド・トイ委員会
11:00	「あのね、知ってる?ここにもフランス」プロジェクト	弘前グローバル・アクション
休憩10分(11:10~11:20)		
11:20	「ひろさき美術館~マレビトの祀り」	弘前アートプロジェクト実行委員会
11:30	冊子「三大地区“地域の絆”」改訂版作製事業	三大地区地域づくり連絡協議会
11:40	弘前城の何でも歴史名人になろう。	南大町町会
11:50	“わ”と“な”の生き生きサークル	津軽保健生活協同組合
12:00	子どもの健康づくり事業	美育・食育 はなか
12:10	講評	
12:20	閉会	



1

弘前暮らしの保健室

弘前暮らしの保健室

事業目的

医療、介護、福祉の経験者と気軽に相談することができ、参加者も例えば手芸や介護経験のお話、調理などそれぞれの得意分野をボランティアで教え、活躍できる場を提供する。

自分らしく生活したいと考える人が気軽に集まり、支え合える場をつくる。

事業内容

弘前市近郊の人を対象に、隔週土曜日に「弘前暮らしの保健室」を開催した。医療、福祉、介護の相談・支援窓口の提供、ミニ講座としての健康維持や介護予防のためのお話、体操のほか、研修会として嚥下食の調理実習と認知症についてわかりやすく寸劇にした公演会を実施した。

事業実施場所：清水交流センター和室ほか

事業実施期間：平成28年7月1日～平成29年3月18日

参加者数：のべ295人

補助金確定額：129,000円(事業費：144,205円)



事業による効果

- ・気軽に相談できる場として定着しており、地域の人が集まれる場となっている。
- ・参加者同士で介護の体験談などを話している様子もうかがえ、互いに助け合う関係ができてきた。
- ・ミニ講座や研修会には、なかよし会の子どもたちの参加もあり、介護や医療の分野に触れていただくことができたほか、参加者と多世代交流が図られた。

今後の活動展開

ミニ講座の内容については、参加者からの要望を取り入れながら計画を進め、その都度振り返りや感想を伺うなど、参加者のペースに合わせて実施していきたい。子どもを対象として、医療・介護・福祉に関係する体験を取り入れていきたい。

自己評価



継続して参加している地域の人もいて、子どもたちの参加もあったことで楽しく交流ができた。

参加者同士の情報交換で、互いに助け合う関係ができた。

ご相談は **無料**

弘前暮らしの保健室

平成 **28年7月16日**より開催！

- ・どなたでも自由に参加できます！
- ・お茶を飲みながら気軽にしゃべり！
- ・医療・保健・福祉の経験者が日ごろお困りのことなどについてご相談に応じます。

場所：弘前市 清水交流センター 和室
日時：毎月 第1・第3 土曜日
9:00 ~ 12:00 ※詳しくは裏面の予定表をご覧ください

たまたに、医療・介護などのイベント(研修会)をします！ ※お問い合わせ先

「弘前暮らしの保健室」運営事務局 ☎0172
代表 佐藤 ゆき子 (勤務先:クアステーション黒牛子) 32-8693

2

国際交流事業

(1)国際交流夏祭り (2)国際交流餅つきフェスティバル

桔梗野町会

事業目的

地域住民、留学生及び弘前大学との連携活動を通して、留学生に弘前の良さを感じてもらおう。

地域住民や子どもたちが留学生との交流により、国際理解とコミュニケーションの方法について考える。

事業内容

夏祭り(1)では、うちわを配布しての盆踊り、飲食店屋台、ゲーム、桔梗野小学校吹奏楽部の演奏のほか、留学生によるスピーチを行った。

餅つきフェスティバル(2)では、参加した留学生に臼と杵を使った餅つきを体験していただき、お雑煮やおしるこを食べながら留学生の合唱、民俗舞踊などを鑑賞した。

事業実施場所(1)弘前大学国際交流会館 (2)桔梗野会館

事業実施期間:(1)平成28年8月20日 (2)平成28年12月17日

参加者数:(1)300人 (2)120人

補助金確定額:127,000円(事業費:467,373円)



事業による効果

事業が町民に定着してきたことで、開催に当たっては留学生の歓迎や接待への協力をしていただけられるようになった。

留学生には、さまざまな体験を通して、日本の伝統文化に興味・関心を持っていただくことができた。



今後の活動展開

町会の二大事業として今後も継続開催していく。

より多くの人に、参加していただいたり、ボランティアとして協力していただけるよう働きかける。

自己評価

町会役員はじめ、地域住民の理解と協力で事業を推進することが出来た。

留学生は町会の他の行事にも参加してくれるようになり、日頃から町民との交流が図られるようになった。



事業目的

園児の野菜嫌いを改善し、かつ生ごみが園児たちの手でたい肥に変わり、野菜や花になって甦ることを体験し、ゴミリサイクルの喜びを感じてもらい、「もったいないは地球を守る合言葉」だということを学んでいただく。

事業内容

市内各保育園に出向いて、全2回の出前講座を行った。

①段ボールコンポストを用いると、食物残渣が簡単にたい肥になり、花や野菜に生まれ変わることを知っていただいた。

②たい肥化の進展状況の確認と、廃食用油でのローソクづくり、ペットボトルキャップでのCO2文字作りを行った。

事業実施場所：市内5保育園ほか

事業実施期間：平成28年4月1日～平成29年2月12日

参加者数：200人

補助金確定額：96,000円（事業費：135,656円）

事業による効果

子どもでも簡単に楽しく作業を行うことができるものと周知することで、多くの市民に段ボールコンポストでのたい肥作りへの実践を促すことができた。

少数ではあったが、家族でも段ボールコンポスト実践に取り組む保護者が出てきて、持続した取り組みにつながる端緒となった。

手間がかかるなどマイナスイメージのある生ごみ処理を、園児による活動を示すことでイメージアップにつなげた。

今後の活動展開

行政等を通じて、公的な場で広く講座を紹介したり、団体で開催するフォーラムなどで活動内容を取り上げ、市内各保育園での自主的な取組を促す。

自己評価



少数ではあるが、園児とともに保護者にも段ボールコンポストによる生ごみのたい肥化に取り組んでいただくことができた。事業の目的はおおむね達成された。



4

「グッド・Toy2016inひろさき」の開催

青森グッド・Toy委員会

事業目的

認定グッド・Toyおよびそれ以外の優良玩具の紹介、展示によって市民に優良な玩具と良い遊びの環境を提供する。
より多くの人に良い玩具と遊びの意義を理解していただく。
健全者と障がいのある人の交流の場として機能させることで、広くバリアフリーについて理解していただく。

事業内容

認定グッド・Toy、優良玩具、県産木製玩具を展示し、それを使って自由に遊んでいただくほか、木に馴染んでいただくため、木材を使ったワークショップを行う。
子どもの発達とおもちゃ・遊びをテーマにした講演会、てんたん人形劇場による人形劇の上演を行った。

事業実施場所: ヒロロ3階 イベントスペースほか
事業実施期間: 平成28年11月5日、6日
参加者数: 1,300人
補助金確定額: 234,000円(事業費: 268,098円)



事業による効果

健全で優良な玩具とは何かという点についての理解が徐々に浸透しつつある。
健全者と障がいのある人が同じ空間で遊んでいる様子が見られ、バリアフリーの地域づくりに良い効果があった。

今後の活動展開

展示はシンプルにして、優良玩具の良さをより実感していただけるように工夫する。
県産の木製玩具や、青森の玩具作家の紹介を行っていく。



自己評価

地域が交流しながら、良い玩具文化や地域の独自性のあるおもちゃの発展にもつながる可能性が示唆された。



事業目的

弘前の文化の素晴らしさを市民に理解してもらい、魅力の再発見につなげる。フランス文化という、今までにない広場の使い方をすることで、蓬萊広場を異文化の発信やまちなかの交流の場として賑わいを創出する。

事業内容

弘前とフランスのつながりを探し、それをまとめたリーフレットを発行した。フランスのマルシェ風市場を再現し、フランス菓子店やパン屋さんなどに協力していただいたの出店や、ワークショップ、ステージ発表などを行った。

事業実施場所：蓬萊広場

事業実施期間：平成28年4月15日～平成28年11月11日

参加者数：600人

補助金確定額：343,000円(事業費：400,646円)



事業による効果

リーフレットを通じて、弘前とフランスのつながりを知っていただくことができ、また、弘前の魅力を再発見するきっかけとなった。

マルシェでは、フランス文化を身近に感じていただけたとともに、新しいお店の紹介や、会話・ワークショップを通じた多世代の交流が図られた。

前年度よりも多くの人に足を運んでいただくことができ、まちなかの賑わい創出に寄与することが出来た。

今後の活動展開

マルシェでのステージ内容やワークショップ、展示の内容を再考する。

イベントを楽しんでもらうほか、プロジェクトの内容を知っていただくため、事前の広報活動を強化するなど工夫をしていく。

自己評価



前年度よりも多くの来場者があり、また、マルシェ来場者のアンケート回答や、リーフレットの感想から、事業に興味を持っていただくことができ、事業の目的は達成できたものと考えている。



6

「ひろさき美術館～マレビトの祀り」

弘前アートプロジェクト実行委員会

事業目的

武家屋敷に現代アート作品を展示することで、たくさんの人を呼び込み、仲町伝統的建造物群保存地区を広く知っていただき、これまで以上に文化財への理解・関心を持っていただく。

事業内容

仲町伝統的建造物群保存地区に点在する4軒の武家屋敷を会場に、県内で活躍する4名の作家による個展形式の展覧会を開催した。
期間中には、出展作家4名による、「古い建物と現代美術という組み合わせの可能性について」などのアーティストトークを行った。

事業実施場所：仲町伝統的建造物群保存地区
事業実施期間：平成28年7月30日～8月12日
参加者数：3,340人
補助金確定額：500,000円(事業費：594,635円)



事業による効果

観光客だけでなく、市内や地元の人にも武家屋敷という弘前の貴重な文化財を体感してもらうことができた。
参加者からは「お茶の集まりで武家屋敷を使ってみたい」という声も聞かれ、今後の利用促進にもつながった。
地元作家の存在を知っていただくことができた。

今後の活動展開

青森銀行記念館などの「趣のある建物」に指定されている建築物を参考に、他の場所での開催を検討する。
開催時期については、さくらまつり期間や、秋ごろなども視野に入れながら、より来場者の皆さんに楽しんでいただけるよう工夫していきたい。

自己評価

市民の来場者が多かったことや、期間中に実施したアンケートの回答から、仲町伝統的建造物群保存地区を知っていただき、武家屋敷の新たな魅力を体感してほしいという目的は達成することができた。



事業目的

地域の歴史や史跡、残しておきたい風景などを再確認して、子どもたちに伝えるために記録として残し、ふるさとを愛する心、大切にすることを育む。児童生徒が安全で安心して登下校できる環境づくりの一助として、日頃から命を大切にすることや、交通安全、防犯意識を高める資料とする。自然災害、人災などの発生において、いち早く情報が伝えられるような緊急連絡網の組織図活用を図る。

事業内容

4年前に発刊した冊子の改訂作業を行った。小学校や協議会内で訂正箇所についての打ち合わせを行った。内容としては、道路の改修や建物新設による安全マップの変更、各町会世帯数の変化などに対して訂正した。また、平成27年に作製した「ジャンボおらほのいろはかるた～弘前」のかるた一覧を加えた。作製後は、三大小学校全児童及び地区内の施設（銀行、郵便局、公共施設等）へ配布した。

事業実施場所：第三大成小学校及び同学区内

事業実施期間：平成28年10月1日～平成29年3月30日

参加者数：400人

補助金確定額：256,000円（事業費：294,114円）



事業による効果

三大小学校全児童だけでなく、地域内の銀行や郵便局に配布したことにより、多くの人の目に触れ、三大地区について知る機会を作ることができた。

地域づくりの事業や学校行事への協力・参加とともに地域住民が子どもたちの健やかな成長を見守る大切さを再認識し、子どもたちには地域に見守られていることを実感していただくことができた。

今後の活動展開

冊子を活用して、児童への下校指導を行う。

地域で行う生涯学習講座や、学校の授業内で行う総合学習で活用していく。

自己評価



児童、教職員、協議会のメンバーがそれぞれの担当を持ち、冊子改訂の作業を通じて繋がりを持つことが出来た。

地域づくり活動の35年の歩みなど冊子内容の充実を図り、現状に合わせたものとする事が出来た。





8 弘前城の何でも歴史名人になろう。

南大町町会

事業目的

津軽に関わる歴史・建造物・町名・学芸等の多岐にわたって、対象者に肌で感じ取らせ、郷土愛あふれ、郷土を誇りとする次代を担う人間の育成を図る。
異年齢間の交流を通して、希薄な人間関係を和らげ、互いを思いやる心をもった人間の育成を図る。

事業内容

町会民を対象に、全戸に事業周知のチラシを配布した。
当日は、参加者みなんで100円バスに乗り、弘前公園まで移動した。
午前中は公園の名前や追手門・博物館の裏にある忍者道の話など、午後は天守閣に移動して、石垣の秘密について学んだ。

事業実施場所：弘前公園
事業実施期間：平成28年10月1日
参加者数：19人
補助金確定額：51,000円（事業費：57,481円）



事業による効果

弘前城と弘前公園の歴史を知り、市民としての誇りを持つことができた。
いつも見慣れている弘前公園について、深い知識を得ることができた。

今後の活動展開

より広い年代の人に参加していただくために、事業内容や実施方法を工夫する。
弘前公園の歴史をもっと深く知るとともに、禅林街など、市内の別の場所でも開催したい。
近隣町会との連携も視野に入れる。



自己評価

参加者のほとんどから「弘前城や弘前公園がこんなにも奥が深いとは知らなかった」という感想をいただいたことから、改めて弘前の良さを実感していただくことができた。



“わ”と“な”の生き生きサークル

津軽保健生活協同組合

事業目的

運動の習慣化、現在の活動量の把握、健康に関する知識の提供による、地域全体の介護予防に努める。
介護予防を目的とした住民集いの場をつくる。

事業内容

健生病院リハビリテーション科スタッフが講師となり、体力測定や体操、健康講座を実施した。基本的な健康知識向上のための資料や、生活ノート、活動量計を配布して、自宅でも継続して運動していただき、それに合わせてアドバイスをした。

事業実施場所：津軽保健生活協同組合本部2階ホール
事業実施期間：平成28年7月9日～平成29年3月22日（月2回）
参加者数：450人
補助金確定額：94,000円（事業費：132,177円）

事業による効果

参加者の運動量の記録から、生活の広がり、人との繋がり、休まず歩ける距離において改善が見られた。
日々の活動量が増加し、社会交流の場が広がった。



今後の活動展開

今回の事業（体力測定・体操・講座・日記）を簡易的にできるようなパッケージを提供し、各地域で教室が出来るような体制を作っていきたい。



自己評価

活動範囲・活動量の改善、社会交流の場の広がり、運動習慣の確立等の目的がおおむね達成された。



事業目的

「美の心」、「豊かな心」を育てる美育と、元気になる食事法を学ぶ食育を通して、子どもたちに心身ともに健康になっていただく。
食育では、元気になる食事法を通して、食習慣の改善や将来の生活習慣病の予防に役立てる。

事業内容

「美の心」、「豊かな心」の形成を促す美育と、元気になる食事法を学びながら、作って食べることを楽しんでもらえるような「食育」を行った。(植物探検隊、びじゅつセミナー、ごはんDEベーグル&元気スープ作り、おむすび作りとお味噌汁、フラワーアレンジメント、お抹茶体験と一輪の花、青森の米粉で作る★シフォンケーキ教室、ダイズで元気★みそ作り教室)

事業実施場所: 清水交流センター、宮川交流センター、弘前城植物園、ヒロロ

事業実施期間: 平成28年6月4日～平成29年3月22日

参加者数: 460人

補助金確定額: 68,000円(事業費: 117,142円)



事業による効果

美育(お花を生けることや作品の鑑賞)は、自分の心・他者の心を認め、リラックス効果が高くなることから、子どもたちが多様な社会で受けるストレスを軽減し、生き生きとした生活を送ることにつながった。

食育では、元気になる食事法を学んで実践することで、家庭でも食生活の改善や将来の生活習慣病予防に取り組んでいる様子が見えかけた。

今後の活動展開

美育・食育ともに好評だったので、今後は対象者を大人や高齢者に拡大し、それに合わせて内容を工夫しながら活動を継続していきたい。

他団体と協力や連携を図りながら、より多くの市民に体験していただく機会を作りたい。



秋田豊先生や、みどりの協会にご協力いただいたことで、活動の幅が広がり、市内全域の人に参加していただくことができた。

スタッフとして参加したボランティア、保護者、参加する子どもそれぞれが役割を果たし、各回ともに充実した内容だった。



